# 茶道部

## 正しい作法とおいしいお茶の日本人的関係を知っていますか？

部長
総合科学部
人間社会学科 2年生
芳田 なつみ（よしだ）

### 日本伝統の作法と茶道を学ぶ

日本人がお茶を飲むようになったのは奈良時代と言われています。茶葉は中国から伝来し、貴族や僧侶などに飲まれました。鎌倉時代には中国へ留学した僧がお茶の種や茶器を持ち帰り、僧侶を中心に飲まれるようになりました。お茶は病気にも効くとも言われたため、当時の将軍源実朝が好んで飲むようになったことから、武士の間にも広まりました。室町時代には人を招いて接待する現代の茶会の原形となる催しが流行となりました。16世紀には千利休が茶道を大成し、江戸時代には一般の町人にも茶道が広がっていきました。現在は茶道の流派も40ほどもあるそうで、茶道の人口は数百万人になると言われています。

### 塩田先生の本格的な指導のもとに

学内には1953年に建てられた茶室『洗心庵』があり、その後茶道部が誕生しました。さらに蔵本茶道部ができ、以後徳島大学の茶道部は二つに分かれて発展してきました。今回紹介する常三島茶道部は部員数が19名、うち男子が5名。昨年の春に部長になった芳田さんは、部活を見学して、先輩の優しさや茶道への興味からやってみたくなったそうです。

部活は月曜日と木曜日。木曜日には裏千家の塩田宗秋先生が指導に来られます。最初から最後まで、背筋をピンと伸ばして正座したまま教えられる姿は緊張感と人の立ち振る舞いの美しさを感じます。「先生は挨拶の仕方から作法の心構え、物を大切にすること、日常生活を大切にすることなどいろいろなことを教えてくださいます。正しい作法が身について、日常生活の中でも役立っています。最初は正座に慣れず大変でしたが、今は長いこと座っていてもだいじょうぶですよ」と、芳田さん。一年生のぎこちない歩き方も、もうかなり自然体になってきたようです。

### 茶会に始まり茶会に終わる

茶道部の年間の活動は茶会に始まり茶会に終わります。

5月には新入生を歓迎する茶会。習ったことがある人も初めての人も先輩の一挙手一投足を緊張して見守ります。

7月は七夕茶会。11月には秋の茶会と季節に応じた茶会が開かれます。

12月は卒業生追い出し茶会。そして正月は瑞巌寺で徳島大学OB会主催の初釜があり、帰省した先輩たちが集まります。

また、年に二回、鳴門教育大・四国大・文理大の4大学交流の合同茶会が徳島市の徳島城博物館茶室で開催され、日ごろの鍛練の成果を披露しあいます。また学年を超えた交流が出来るのも徳大茶道部の良いところです。

興味がある方はぜひ部活の見学をおすすめします。おいしいお茶とお菓子がふるまわれます。

部活は月曜日が午後5時から、木曜日が午後3時から6時まで。常三島体育館2階の和室です。

報告

# 平成16年度に係わる業務の実績に関する評価結果

理事（総務担当）
黒田 泰弘 くろだ やすひろ

### はじめに

徳島大学が法人化されて初めての国立大学法人評価委員会による年度終了時の評価が平成16年度の実績についてなされました。評価には、項目別評価と全体評価とがあります。項目別評価で、中期計画の各事項の進行状況を確認するとともに、その結果を踏まえて、全体評価で、中期計画の進行状況全体について総合的な評価が行われました。特に、教育研究の高度化、個性豊かな大学づくり、大学運営の活性化などを目指した特色ある取り組み、大学運営や教育研究活動を円滑に進めるための様々な工夫が積極的に評価されました。評価結果は本年9月に決定され、本学は、順調に運営されていると判断されました。ここでは評価結果の概要を報告します。詳細は本学のホームページをご覧下さい。

### 項目別評価

項目別評価の5項目の中で「業務運営の改善及び効率化」と「その他業務運営に関する重要事項（施設設備の整備・活用安全管理、等）」の2項目は、「計画通りに進んでいる」と判断され、「財務内容の改善」と「自己点検・評価及び情報提供」の2項目は、「おおむね計画通り進んでいる」と判断されました。「教育研究等の質の向上」の項目では返済義務のない特別待遇奨学生制度の発足等、多くの事項が注目されました。

### 全体評価

中期計画の進行状況全体について次のように評価されました。

●企業人の理事への登用等、学外人材の活用を図りつつ、新体制の下、学部長補佐、病院長補佐の設置による部局の運営体制整備も図りながら、効果的な大学運営に取り組んでいる。ヒューマンストレス研究センターを時限付で設置しており、時期を限った組織設置に特色がある。

●外部資金の受入に積極的に取り組み、科学研究費補助金、受託研究費及び共同研究経費の総額は、約20億3，300万円となり、前年度に比べて約9，000万円増加している。また、附属病院の収支の改善は、計画を上回る実績を上げている。施設マネジメントに関しては、部局のスペース利用の実態調査が完了したので、施設の有効活用を促進することが期待される。

●「自己点検・評価の進め方」及び「中期目標・中期計画に関する基準と方法」を策定し、すでに初年度内に2回の点検・評価を行い、結果を改善に結び付けたことは評価できる。

●全学共通カリキュラムの改正、GPAの導入、学生・大学院生からなる「教育の質を向上させるためのワーキンググループ」の設置等、教育機能を高めるための多角的な取り組みが目立つ。「研究連携推進機構」を強化して知財の管理と活用を図り、技術移転、ベンチャー起業等を積極的に推進して、世界的な知名度を得ている点は評価できる。